

## 復活節第6主日

ヨハネ 14・23-29

2022.5.22

カトリック高円寺教会  
主任司祭 高木健次神父

今日は、最初に「聖書と典礼」の[最初の絵](#)を見て欲しいです。今日の絵は第二朗読から採られています。天から下ってくる聖なる都エルサレム、その幻の様子が、11世紀、中世の絵ですね、東西南北に三つの門があって、十二の門が都にありました（黙示録 21・10-14）ってということが第二朗読のヨハネの黙示で語られてましたけど、この天から下ってくる聖なる都エルサレムというのは、世界の完成のときの希望の様子ですね。つまり、東西南北に三つの門があって、全部で十二の門が全部の方向に開かれていますってというのは、全ての人が入ることができる、全ての人に居場所がある社会、それを表わしています。この世の完成のときにそれが実現するんだという希望を、わたしたちのこの教会の信仰は持ち続けて、常にそのゴールを見据えていると同時に、ただ待ってるだけじゃなくて、教会、わたしたち自身がこの世にあって、目に見える天のエルサレムのしるしになるように、そして人類社会全体が少しでも、全ての人に居場所がある、開かれた、ここに描かれている天のエルサレムの状態にこの社会がなるようにそれぞれが微力ながら働く、そこに招かれているんだってということをいつも思い起こす、そのように呼びかけられています。

天のエルサレムの目に見えるしるしというのは、教会全体は勿論そうなんだけれども、それだけじゃなくて、そこに一人ひとり呼び集められているわたしたちの心の中に一番小さい単位の天のエルサレムがあるようにっていう、これが神様のお望みでもありますよね。つまり、わたしたちの心の中は、出会う人みんなのための場所がわたしたちの心の中にあるという状態ですよね。それは本当に、思い起こしても難しいなと思いますし、遠い道のりなんだけど、でも、わたしたちはそこにいつも招かれているっていうことを思い出すし、そして、そこに向かって歩もうとするならば、そのためだったら神様はいくらでも助けてくれるんですってというのが、今日の福音でイエス様が弟子たちに、そしてわたしたちに残してくださった約束ですね。「父と私はその人のところに行つて、

一緒に住む」、「聖霊がすべてのことを教え、わたしが教えたことをことごとく思い起こさせてくださる」というその約束は、父と子と聖霊の神様の全体が、神様が総出でわたしたちのところに来てくださる。それは心強い希望です。そして、聖霊の交わりのうちに、神様に属するあらゆる方たちもわたしたちの歩みを助けてくださる。マリア様とか天使とか聖人たちとかね。そのことを回心の祈りの中でも確認しましたよね。だから、神様は総出で、そして天の方々総出で、わたしたちを助けてくださる。その助けっていうのは、一人ひとりの心の中に、また、教会が、そしてこの人類が、天のエルサレムのようにみんなの場所を作ることができる、そのための助けですね。

今日は、聖書と典礼の最初のページにも書いてありましたが、「世界広報の日」、カトリック教会にとっては「世界広報の日」ってなってます。で、その広報の日に当たっては毎年教皇様がメッセージを出されるんだけど、その中に、「わたしたちは自己完結している原子としてではなく、共に生きるように創られているのです」というパパ様の言葉が出てくるんだけど、このように、わたしたちは神様と繋がって、そしてお互い同士繋がって、そして、天のエルサレムの状態の完成に向かって歩むんだ、お互い助け合いながら。だから、わたしたちが神様やマリア様や天使とか聖人たちの助けを得ているだけじゃなくて、お互い同士も神様の力によって助け合うことができるようになる、その希望にも召されているわけですね。

ところで、今「世界広報の日」ということを申し上げましたが、このことばは、日本語だと「広報の日」となってますけど、英語だと **World Communications Day** となっています。コミュニケーションの日なんですよ。その趣旨は、いろんなコミュニケーションのための便利なツールの活用法についてかえりみましよう、というのが中心的なテーマだから、日本語では「広報の日」って訳されているんだけど、意味としてはもっと広いですね。広報というと、一方的にこちらのことを知らせる、けどコミュニケーションだったら、いろんな人とかかわり方というようなことも含めて、あるいはそれを前提としての話になるはずなんで、実際に今年のパパ様のこの日のためのメッセージのテーマは「心の耳で聞く」っていうことでした。互い同士のその関係の中で、「聞く」ということは一番、まず出発点だし、とても大切なんだということを改めて思い起こさせてくださっています。全文読みたい方は、中央協議会のホームページに出ていますので、お読みになったらいいんじゃないかと思います。

コミュニケーションは相手に本当に耳を傾けるということから始まるし、そして、自分の本当の願いにも耳を傾けるようにしましょう、そうするならば、わたしたちは神様に似た者になるんです、というふうに教皇様は励ましてくださっています。

世の中の人たちは、神のようになる、あるいは神になるというのは、周りの人を自分の思い通りに、自分の言うことを聞かせる、そういうような関係を「神に似ている」というふうに思っています。でも、わたしたちの信仰は逆なんです。相手のことに本当に耳を傾けて、神様がわたしたちの祈りや心の願いを本当に聞いてくださるように、お互い同士に耳を傾けることができたときに、わたしたちは本来そう創られている神の似姿なんだ、それが本来の人間の姿なんだということですよね。

そのことを思い起こしながら、わたしたちがお互いに謙虚に耳を傾けることから出発して、それぞれの心の中に、そしてまた、教会、そして社会が天のエルサレムのように全ての人のために場所を持ち、居場所があるという状態にしていくことができますように、わたしたちの心の耳を開いてください、という思いを持ってお互いのためにこのごミサを共に捧げたいと思います。